

寄附講座の研究活動について

平成26年9月24日
公立大学法人福島県立医科大学

第1 趣 旨

寄附講座は、企業等からの寄附金を財源として運営しているため、既存の講座等と比較し、より一層の講座運営の透明性、研究活動の実績や成果が求められています。

このことから、本学においては、研究活動等に係る定例報告や研究活動・成果報告会の開催など、適切な講座運営や研究成果の確保を図るための取組みを推進しています。

(1) 研究活動等に係る定例報告

研究活動（研究達成度の自己評価、今後の方針、学会発表・論文実績等）や会計（支出状況や高額支出の運営管理状況）について、定期的（翌年度の4月）に報告を受け、必要に応じて助言等を行うなど、大学としてのチェック機能を担保することにより、運営管理体制のさらなる可視化と円滑で適切な講座運営を推進しています。

(2) 研究活動・成果報告会

寄附講座の研究活動、成果（論文、特許等）、今後の計画等について、本学教職員・学生、寄附者、関連企業、県内大学関係者等を参集し、年1回（毎年3月頃）報告会を開催しています。

(3) 寄附講座だより

各寄附講座の研究活動・成果について学内外へ周知するため、年1回（毎年3月頃）発行しています。

(4) 寄附講座の研究活動の推進について

寄附講座の研究活動を推進し、より効果的な成果を上げられるよう支援するため、研究活動に係る寄附講座からの定例報告を基礎として、研究推進戦略室において寄附講座アドバイザーをはじめ、寄附者や外部有識者の意見や評価をお聴きし、幅広い視点や知見から研究活動の評価や助言等を行っています。

第2 平成25年度における寄附講座の研究活動について

1 各寄附講座の研究活動について

(1) 各寄附講座の活動状況

寄附講座 (設置期間)	研究テーマ	主な研究活動の状況
心臓病先進 治療学講座 〔H23. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	心臓病に合併する睡眠 時無呼吸症候群の診療 体制の構築	心臓病領域における睡眠時無呼吸症候群（SAS）の 診断法、治療法、診療体制構築の研究 ・心臓病患者の睡眠時無呼吸症候群スクリーニング法 の検討 ・睡眠時無呼吸症候群に対する陽圧治療デバイスの効 果に関する検討 ・患者支援体制システム・ネットワークの検討
慢性腎臓病 (CKD) 病態 治療学講座 〔H24. 4. 1 ～H27. 3. 31〕	慢性腎臓病（CKD）の 集約的治療法の開発と 地域医療連携システム の構築	・CKDの病態解析 ・CKDとその合併症に有効な集約的治療法の検討 ・県内CKD患者の登録システムの構築 ・CKD関連の公的班研究への参画 ・一般・医療関係者に対するCKDの啓発

周産期・小児 地域医療 支援講座 〔H24. 4. 1 ～H27. 3. 31〕	周産期・小児医療支援 システムの構築と地域 密着型後期研修プログ ラムの研究及び開発	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川地方の周産期・小児医療に関する医療統計 ・小児科及び産婦人科医療の受療動向の調査 ・診療応援、小児科及び産婦人科医師育成のための地域密着型研修プログラムの研究及び開発
災害医療 支援講座 〔H24. 4. 1 ～H28. 3. 31〕	災害医療に関する研 究、被災地の医療ニー ズの研究	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の医療に対する住民のニーズ及び受療動向に関する調査 ・被災地の医療機関に対する診療応援
不整脈先端 治療学講座 〔H25. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	不整脈の最先端診療体 制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・植え込み型デバイスによる心臓病の管理法の確立 ・テーラーメイドのカテーテルアブレーション法の開発 ・致死性不整脈、心臓突然死のリスク層別化指標の確立
腫瘍生体 エレクトロ ニクス講座 〔H25. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	がん患者の免疫化学療 法及び関連する生体計 測に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍生体治療分野：癌患者における免疫学的検討、栄養学的評価等に関する継続的研究 ・エレクトロニクス分野：生体計測（測定センサー等）とその組み込み機構をマイクロメカニカル技術で構築する手法
地域救急医療 支援講座 〔H25. 5. 1 ～H30. 3. 31〕	地域救急医療体制の基 盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市における救急医療に対するニーズ及び受療動向に関するデータの収集及び分析 ・福島市病院において、研修医に対する救急医療の実地研修プログラムの研究、職員に対する救急医療教育に関する研究、救急医療体制に関する教育・研究 ・一次・二次・三次救急の系統的な教育・研修プログラムの構築
地域産婦人科 支援講座 〔H26. 1. 1 ～H30. 12. 31〕	産婦人科分野における 腫瘍及び若年発症の感 染症に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・いわき地域における子宮頸がんの予防に向けた実態調査 ・婦人科分野における腫瘍に関する研究 卵巣癌の早期発見を目標とするマーカーの研究 ・婦人科分野における腫瘍に関する研究 卵巣癌腹水中の腫瘍細胞を用いた抗癌剤感受性試験

2 研究活動の評価について

各寄附講座の研究活動報告（自己評価）を基礎として、寄附者及び寄附講座アドバイザー等の意見・評価を踏まえ、研究活動の評価を取りまとめました。

寄附者及び寄附講座アドバイザー等からは、全般的に、設置計画等に沿って適切に研究活動が展開されているなど、概ね肯定的な意見をいただいたほか、各講座の優れた研究活動・成果について、積極的に情報発信するよう助言もありました。

(1) 評価者

- ア 寄附者・・・・・・・・・・回答数27／全寄附者数32
- イ 寄附講座アドバイザー・・・学外有識者3名
- ウ 研究推進戦略室・・・・・・・・・・室長等3名

(2) 各寄附講座の評価結果

寄附講座	評価	主な意見
心臓病先進治療学講座	S	・目的に沿った研究が行われ、優れた成果を論文や学会発表で積極的に公表している。
慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座	S	・6つのプロジェクトが一貫して実施されており、IT技術の適用では新たなCKD治療の地域展開として外部資金(JST)も確保し、その優位性を示している。 ・新たな取組みも展開するなど、期待以上の成果を上げている。 ・県内地域・企業と連携し、積極的に市民への啓発活動も行っており、取組みに工夫がみられる。
周産期・小児地域医療支援講座	A	・地域医療支援を着実に進め、成果を上げている。 ・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点を明確にし、基幹病院の役割の重要性を再確認した。
災害医療支援講座	A	・目的に沿った成果を上げ、着実に地域密着の医療活動を実施しており、住民と解決すべき問題点を共有認識している。 ・研究成果の情報発信を積極的に行い、新たな寄附者を確保した。
不整脈先端治療学講座	A	・寄附目的に沿った適切な研究活動を着実に進めており、研究成果を上げている。 ・総合的不整脈治療における革新的新医療の普及活動や優れた論文、学会発表を通じて国内外に広く発信している。
腫瘍生体エレクトロニクス講座	A	・概ね寄附目的に沿った研究活動が適切に行われている。 ・論文、学会発表、講演、試作機など一定の成果を上げている。
地域救急医療支援講座	A	・寄附目的に沿った研究活動により成果を上げている。 ・福島市の救急医療体制強化に着実に貢献している。
地域産婦人科支援講座	A	・寄附目的に沿った研究活動に向け、適切な準備活動及び基盤整備が展開されているとともに、平成26年度からの産婦人科診療体制強化が見込まれており、期待通りの成果を上げているものと認められる。 ・短期間(3か月)であるため評価が難しいが、多くの関係機関との複雑多岐な調整の中、アンケート実施などその立ち上げを実感できる。

【注】評価 ※ (%) は進捗状況・達成状況のイメージ

- S・・・優れている。(計画の100～120%程度)
- A・・・評価できる。適切である。(計画の80～100%程度)
- B・・・やや改善を要する。(計画の60～80%程度)
- C・・・改善を要する。計画を実施できていない。(計画の60%未満)

3 助言等について

各寄附講座の研究活動を推進するとともに、より効果的な成果を上げられるよう、寄附者及び寄附講座アドバイザー等から以下のような助言等がありました。

(1) 助言等の概要

- ① 研究活動に関連する医療機器等の開発・製造については、本県の医療機器関連産業の振興の観点から、県内企業との連携・活用について留意するよう意見がありました。
【心臓病、不整脈、エレクトロニクス】
- ② 研究の進捗状況や成果、研究体制の変化等について、地域との連携や寄附者との間でこれまで以上に情報共有を図るよう求める助言がありました。
【エレクトロニクス、周産期・小児、地域救急】
- ③ 各寄附講座の研究活動・成果について、今後も積極的な情報発信や啓発活動を求める意見がありました。
【心臓病、CKD、災害医療、不整脈】

(2) 各寄附講座における助言等への対応について

助言等への対応について、各寄附講座より以下のような報告がありました。

- ① 県内企業との連携・活用については、県内企業から提案があれば積極的に協力すること、また既に連携を進めている報告もありました。
- ② 寄附者との情報共有については、寄附者の希望に応じた情報提供や継続して活動・業績報告を行う対策が示されました。
- ③ 各寄附講座の研究活動・成果の発信については、寄附者を通じた情報発信、市民講座、学会、マスメディアの活用等、対応策が示されました。